



田宮 昭彦
(ひかりが丘)

後醍醐
しーす

「げがせんよう無理するな」これが我々のチームの合言葉。5月15日、御来屋港で開催された後醍醐レースに、44年前の名和中3年生が参加しました。仕事や子育てに夢中で、人生を振り返る余裕もなかった自分たちが、還

手に奮闘して、決勝まで進みました。恵まれた自然や厚い人情の人々の中で育ててもらった我々が、次の世代に大山町のすばらしさを伝えていく番になりました。来年は還暦。赤の衣装で揃えて、優勝めざして祭りを盛り上げていきます。



林原 健悟
(大山)

大山に
帰って
きて

私は大学やホテル業で10年近く関東に住んでおり、2年前に家業の宿泊施設を継ぐべく地元大山に帰ってきました。大山で働いてみてまず初めに違和感がありました。それは閑散期が多

く、そして繁忙期との差が大きいことでした。私が関東で勤めていたリゾートホテルでは毎日満室が当たり前だったので、なおさらそう感じたのかも知れません。私は、この違和感が今も抜け切れず、繁忙期はもちろんのこと、閑散期も今より少しでも多くのお客様に来てもらえるよう試行錯誤しています。



鳥本 悠介
(ナスパルタウン)

自然の恵みも
次世代に

大山町に家族で移住してきて4年。大山町は、自然豊かで、食べ物が美味しく、1次産業が活発で自然と共に生きている町だと感じています。これだけの、山から海までの恩恵を受けている町も、他では、類をみないと思

ます。私にとって大山町は自慢の町です。移住してきて本当によかったです。なので、地元の方々も、大山町を誇りに思っ、自慢してやってくください。そして、ぜひとも、この素晴らしい自然の恵みを、子どもや孫、その先の世代にも引き継いでいってほしいです。

ユードピア小屋付近のナンゴククガイソウ

あとがき

6月定例会をはさみ、大山町にとってうれしいニュースが2つありました。

4月には、「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」が日本遺産に認定されたこと。6月には、本町教育委員会の15年を越す地道な調査・努力が実り、「大山寺旧境内」が国の史跡指定を受けたこと。いずれも地元で暮らす住民にとって大きな喜びであり誇りでもあります。私たちはその歴史的価値を再認識し、理解を深め、より多くの人々にアピールする努力が必要と思います。

大杖

発行責任者

議長 野口 俊明

【広報常任委員会】

- 委員長 米本 隆記
- 副委員長 圓岡 伸夫
- 委員 近藤 大介
- 委員 大杖 正彦
- 委員 大原 広巳
- 委員 加藤 紀之